さぬき市 津波ハザードマップ

SANUKI CITY TSUNAMI HAZARD MAP

2014年（平成26年）1月 発行

■このハザードマップを使って日ごろから津波に備えておきましょう。

ハザードマップを活用しよう！

このハザードマップは、南海トラフを震源とする地震により発生する最大クラスの津波から身を守るための情報が掲載されています。このマップを活用し、地震・津波に対する具体的なイメージをもって、その特性を正しく理解するとともに、正しい判断と行動をすることで、津波から命を守りましょう。

●津波災害に関する学習をしましょう。

●持出品を準備し、すぐに持ち出せるような場所に保管しましょう。

●海水浴や川遊びに出かけるときは携帯ラジオを持ち、近くの避難可能な場所を把握しておきましょう。

●防災訓練に参加し、地域における協力体制について話し合いましょう。

●家族で話し合い実際に避難場所まで歩いてみたり、我が家のハザードマップをつくりましょう。

■家族が居る場所から近い避難所や連絡先を記入しておきましょう。

家族（親戚・知人など）の名前	電話番号（会社・学校・携帯）	備考

わが家の避難所	家族の集合場所	非常持出品の置き場所

■災害用伝言ダイヤル171やWeb171で家族の安否を確認しましょう。

災害用伝言板（災害用伝言ダイヤル171／Web171）は、電話・インターネットを利用して被災地にいる方の安否確認ができる伝言板です。携帯電話、スマートフォン、パソコンなどからも利用することができます。

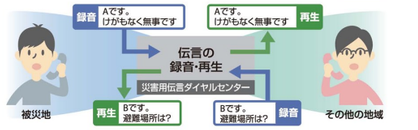
災害用伝言ダイヤル

1 7 1

災害用伝言ダイヤル171は、固定電話を利用した声の伝言板です。大規模な災害が発生した場合に提供を開始します。災害時は全国から被災地への電話がつながりにくくなります。もしものために、ぜひ覚えておいてください。

Web171（文字の伝言板）
https://www.web171.jp
※SoftBank、au、docomo等のキャリアごとにアクセス方法が異なります。

録音する場合　171 ＋ 1（相手番号を利用する場合は 3）→ 被災地の方の電話番号（市外局番からダイヤルする）→ 録音（30秒）
再生する場合　171 ＋ 2（相手番号を利用する場合は 4）→ 被災地の方の電話番号（市外局番からダイヤルする）→ 再生（30秒）



■いざというときの連絡先

海難事故	火事・救急	警察
118	119	110

さぬき市役所 総務課　〒769-2195　さぬき市志度5385番地8
電話：087-894-1111　FAX：087-894-4440
電子メール：somu@city.sanuki.lg.jp

■津波ハザードマップ

この津波ハザードマップは、香川県地震・津波被害想定調査により公表された南海トラフを震源とする地震により発生が予想されている最大クラス（※）の津波被害想定に基づき作成しています。

※　**最大クラス**の地震・津波とは、千年に一度あるいはそれよりもっと低い頻度で発生するが、発生すれば甚大な被害をもたらす地震・津波です。南海トラフで最大クラスの地震が発生した場合、さぬき市の最大震度は震度**6強**、その揺れは最大で約**4分間**続くことが予想されています。

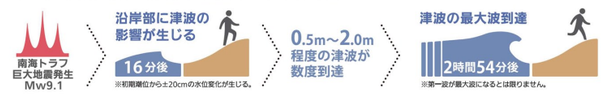
■被害想定

市内の主な港の最高津波水位

志度港	江泊漁港	津田港	脇元漁港
3.8m	2.7m	3.0m	2.6m

浸水面積　浸水の深さが1cm以上となる地域の面積　**528ha**

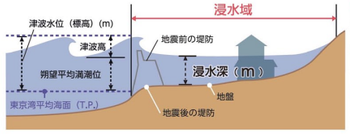
志度港における海面変動開始時間等（津波の影響がでるまでの想定時間）
※想定時間はあくまで目安の時間であり、想定時間まで最大波が到達しないということではありません。



■津波被害想定の条件

香川県地震・津波被害想定調査の津波被害想定は、次のような条件でシミュレーションしています。

条件1	四国沖の南海トラフを震源とするMw(※)9.1の地震により最大クラスの津波が発生 ※モーメントマグニチュード
条件2	地震発生時の海面は満潮時（朔望平均満潮位）とする
条件3	地震による海底地盤の沈降（地盤沈降量）を考慮する
条件4	液状化による陸域の沈降量を考慮する
条件5	堤防や防波堤は破壊され機能しない(※) ※コンクリート構造物は100%、盛土構造物（土で築造された堤防等）は75%沈下、津波が堤防などを乗り越えた場合は破壊



【東京湾平均海面（T.P.）】
東京湾の代表地点における平均潮位の海面の高さ。標高の基準となる。【東京湾平均海面＝標高（海抜）0m】

【朔望平均満潮位】
朔（新月）および望（満月）の日から5日以内に現れる、各月の最高満潮面の平均値

【津波高】
朔望平均満潮位と津波により上昇した海面の高さとの差

【津波水位】
東京湾平均海面（T.P.）と津波により上昇した海面の高さとの差

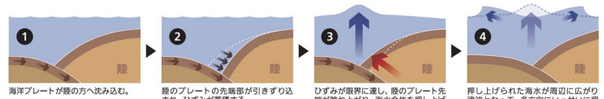
【浸水深】
浸水域の水面から地面までの深さ

注意していただきたい事項

●このハザードマップは、最大クラスの津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を表しています。
●最大クラスの津波は、現在の科学的知見を基に計算したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
●このハザードマップの浸水域や浸水深は津波による災害や被害の発生範囲を決定するものではありません。
●浸水域や浸水深は、局所的な地面の凹凸や建築物の影響、地震による地盤変動、構造物の変状などにより、浸水域外でも浸水が発生したり、浸水深がさらに大きくなる場合があります。
●浸水域や浸水深は、津波の第一波ではなく、第二波以降に最大となる場所もあります。

■津波発生のメカニズム

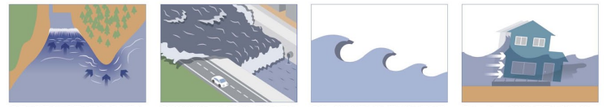
海底で地震が起こると、大量の海水が一度に大きく持ち上がり、津波となって沿岸までやってきます。



海洋プレートが陸の方へ沈み込む。
陸のプレートの先端部が引きずり込まれ、ひずみが蓄積する。
ひずみが限界に達し、陸のプレート先端が跳ね上がり、海水全体を押し上げる。
押し上げられた海水が周辺に広がり津波となって、多方向にいっせいに押し寄せる。

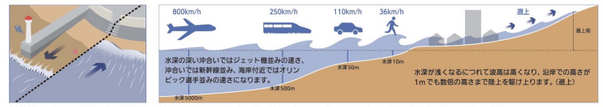
■津波の特徴

津波はいくつかの特徴を持った災害です。津波の特徴を知り、いざというときのために準備をしましょう。



●湾の先端やV字型の湾内、入り組んだ海岸は津波のエネルギーが集中し、波が高くなる可能性があります。
●津波は川を遡り（遡上）、堤防を超えて陸地に津波が溢れます。
●第一波より第二波、第三波のほうが大きくなる可能性があります。
●1～2mの津波で家屋の全壊、流失する可能性があります。

●津波はガレキ等の漂流物を巻き込んで破壊力を増し、建物やときには防波堤さえも壊すことがあります。
●20～30cm程度の津波でも立っていられなくなり、足をとられ波にさらわれます。
●引いていく波の破壊力もすさまじく、陸で引き波にさらされて沖に流されてしまうこともあります。
●津波は繰り返し襲って来ます。地震後6時間（最大12時間）は注意が必要となります。



●津波は引き潮からはじまるとは限りません。
●震源が近く、水深が深いほど津波は速く襲ってきます。早いときには揺れてから数分で襲ってきます。
●基本的に地震の震度と津波の高さは比例します。

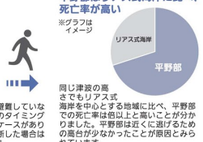
■過去の津波による被害（東日本大震災からの教訓）

東日本大震災のときに起きた津波災害から学ぶことで、私たちの命を守るヒントがあるかもしれません。
同じ失敗を繰り返さないように特徴的な事例を学びましょう。

死亡者の過半数は高齢者

東日本大震災の死者のうち60歳以上の比率は64.4%と高齢者ほど死亡率が高くなっています。津波被害から逃げたり脱出したりする困難性が加齢により大きく影響を受けた様子が伺われ、自宅にいて、逃げ遅れたケースが少なくないとみられます。

死因の9割は溺死



東日本大震災でなくなった岩手、宮城、福島3県の人たちの死因の9割は、津波による溺死でした。津波による死因は、海や川、プールでなくなる「狭義の溺死」と異なり、津波の水圧と水流、漂流物という三つの要素が大きな影響を与えていたと考えられています。

避難は率先して

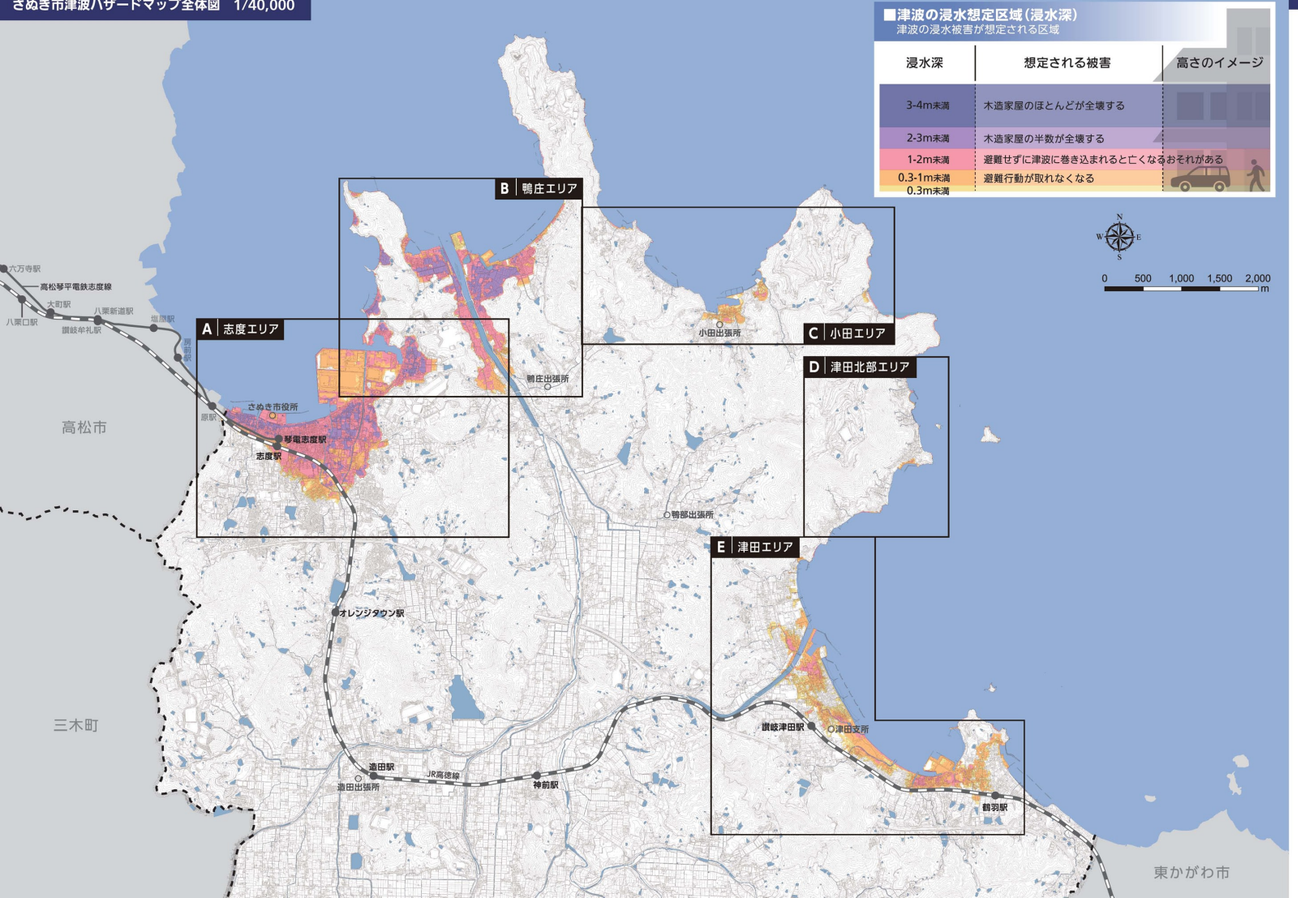
津波が来ると知らされてもどこかへ入ることに考え、近所の人たちもまだ避難していないし大丈夫だろうと避難のタイミングが遅れて被災してしまうケースがあり表した。自ら危険だと判断した場合は率先して避難をしましょう。

平野部はリアス式海岸に比べ、死亡率が高い

※グラフはイメージ

同じ津波の高さでもリアス式海岸を中心とする地域に比べ、平野部での死亡率は倍以上と高いことが分かります。平野部は近くに逃げるための高台が少なかったことが原因とみられています。

さぬき市津波ハザードマップ全体図　1/40,000



■津波の浸水想定区域（浸水深）

津波の浸水被害が想定される区域

浸水深	想定される被害	高さのイメージ
3-4m未満	木造家屋のほとんどが全壊する	
2-3m未満	木造家屋の半数が全壊する	
1-2m未満	避難せずに津波に巻き込まれると亡くなるおそれがある	
0.3-1m未満	避難行動が取れなくなる	
0.3m未満		

■津波から命を守るために

ポイント マップで自宅や家族に関係する場所の浸水深を確認しましょう。 地震・津波から命を守るために、いざというときの行動や避難の方法を普段から想定し、適切に避難をしましょう。

大地震発生
立っていられない揺れです。
▶まず身の安全を確保しましょう！
●机やテーブルの下へ隠れて頭を守り、じっと待つ。
●倒れてくる家具や落下物に注意する。
●ドアや窓を少し開けて、逃げ道を作っておく。
●車にいた場合：●車は道路の左脇へ寄せ、鍵はつけたままで避難する。
●船にいた場合：●船は港に戻らずに沖合いへ避難する。

地震発生から 1-2分（最長4分間）
強い揺れがおさまったら・・・
▶落ち着いて状況を把握しましょう！
●長い1分以上の揺れが収まったら、警報等の発表を待たずにすぐに避難する。
●すぐ避難できるように靴を履いておく。
●避難は、ガラスやかわらなどの落下物に注意し、落ち着いて行動する。
●避難前は火元を消す。都市ガスは自動で元栓が閉まる場合があります。
●海へ行って見物してはいけません。津波が見えてからでは逃げられません。

地震発生から 2-3分
気象庁より津波警報発表
●地震発生から2～3分で津波情報が発表されます。注意報・警報が出たら冷静な行動をし、避難してください。

地震発生から 3分-15分
※沿岸部に津波の影響が出るまでの時間です。地震発生から15分までに避難しましょう。
住まい、職場、学校などに津波の危険がある場合
「すぐ逃げましょう！」
▶揺れを感じなくても、注意報、警報が発表されたり、市からの避難指示・勧告が発令されたらすぐ避難！とにかく走って、戻らない！
●小さな揺れでも要注意。まずは避難が最優先。
●より早く、遠くへ、高い所へ避難
●海岸や河川からはできるだけ遠ざかるように避難
●車で避難しない。渋滞を引き起こし、危険です。
●持出品は取り出しやすい場所に保管する。

津波てんでんこ
●津波てんでんこ「自分の命は自分の責任で守れ」
「てんでんこ」は「てんでんばらばら」の意味で、「人にかまわず必死で逃げる」という三陸地方の教訓。緊急時に災害弱者（子ども・高齢者）を手助けする方法などは、地域であらかじめ話し合って決めておきましょう。

地震発生から 6時間（最大12時間）
できるだけ、市が指定した広域避難場所・津波避難場所に避難する。
▶津波注意報が解除されるまでは戻らないようにしましょう！
広域避難場所　津波避難場所
●近くに高台が無い場合は高い丈夫な建物など可能な限り高い所へ避難する。
●避難所では最新の情報を収集する。
市では今後災害毎の避難場所を随時指定することとしています。この中で「津波避難場所」を指定します。

地震・津波の危険がなくなった（津波警報・注意報の解除）
家に被害がない
家に被害があり生活できない

地震発生から 数日
家にもどる
指定避難所（建物）での避難生活（浸水区域外）

住まい、職場、学校など津波の危険がない場合
▶浸水区域には近づかないようにしましょう！
●家族や近隣住民の安否確認を行う。
●周囲と協力して救出／消火活動を行う。

避難所に行く必要がある　ー 避難所に行く5つの理由 ー
（阪神・淡路大震災からの生活復興2005ー生活復興調査結果報告書ー）
京都大学防災研究所巨大災害研究センター（2006）より
1.「ガスの途絶」「断水」「トイレの使用不可」など「ライフラインの使用不可」
2.「行政支援、情報・物資、人のいるところを求めて」など「情報・物資の要求」
3.「高齢者・ケアが必要な家族の存在」
4.「建物の安全性への不安」「避難指示等が出ておらず、周囲に誘われて」
5.「余震が怖い」「環境変化への心配のある乳幼児がいない」

避難所に行く必要がない
●余震や津波など災害情報に注意する。
●ガラスの破片や転倒した家具などの片付けを行う。
●ブレーカーを切り、ガスの元栓を締める。
●非常持出品を準備する。
●災害時要援護者の避難等に協力する。

■津波警報等の種類

気象庁は、地震が発生したときには地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約3分（一部の地震については最速2分程度）を目標に、大津波警報（特別警報）、津波警報または津波注意報を、津波予報区単位で発表します。

	予想される津波の高さ（平常潮位から海面変化した最の高さ）数値での発表（高さ予想）		想定される被害	高さのイメージ	取るべき行動
大津波警報（特別警報）	10m超（10m～）	巨大	木造家屋は全壊、流失し、多くのガレキや船舶なども陸上に押し流され、さらに多くの家屋が流失します。		マップの浸水域や海岸、川の近くに居る人はただちに近くの市が指定した広域避難場所や津波避難場所または高台などに避難する。
	10m（5m～10m）				
	5m（3m～5m）				
津波警報	3m（1m～3m）	高い	家屋の浸水被害や流出。木造家屋は2mの浸水で全壊、流出します。（内閣府データより）		広域避難場所 / 津波避難場所
津波注意報	1m（20cm～1m）	表記しない	養殖いかだが流失し、小型船舶が転覆します。		

■津波警報・注意報や避難情報等の伝達経路

気象庁（震源及び津波予測）→ さぬき市 / 放送事業者 / 携帯電話事業者（津波警報）→ ■防災行政無線 ■音声告知放送 ■CATV ■メール配信サービス ■ホームページ ■緊急速報メール ■防災行政無線 ■広報車 ■消防団 / ■テレビ ■ラジオ / ■緊急速報メール → 住民のみなさん

災害時には速やかに様々な手段で住民のみなさんに情報が伝えられます。

■緊急地震速報の伝達経路

気象庁 → さぬき市（J-ALERT）→ ■防災行政無線 ■音声告知放送 ■メール配信サービス / 放送事業者 / 携帯電話事業者 → ■テレビ ■ラジオ / ■緊急地震速報 → 住民のみなさん

■インターネット等による情報入手

さぬき市の災害、避難、雨量や河川水位等の情報は、ホームページやメール配信サービスからでも情報を確認することができます。

さぬき市ホームページ	http://www.city.sanuki.kagawa.jp/
さぬき市メール配信サービス（安全安心コミュニティー）	http://anshin.sanuki.ne.jp/
香川県防災情報ホームページ	http://www.pref.kagawa.lg.jp/bosai/
気象庁ホームページ	http://www.jma.go.jp/index.html

■海抜表示板

その場所の海抜を表示しています。

ここの地盤は 海抜 3.5m